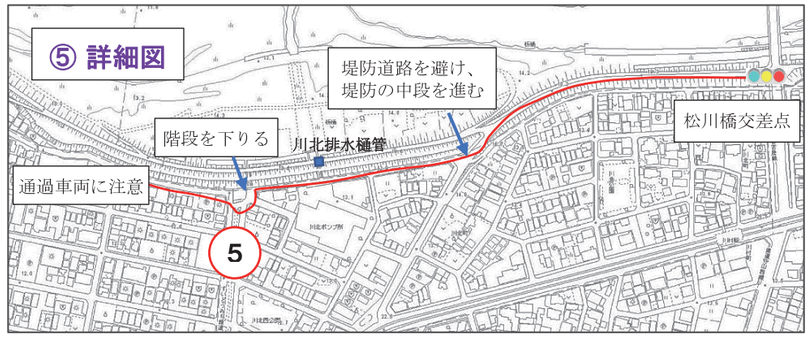
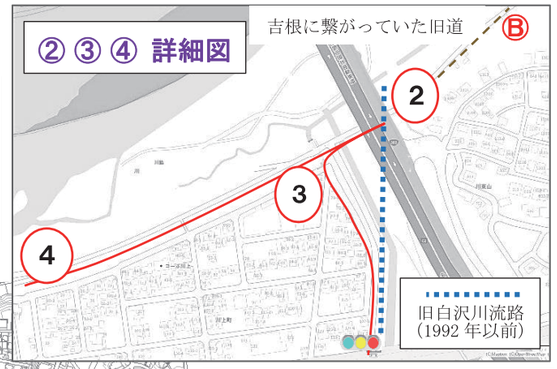
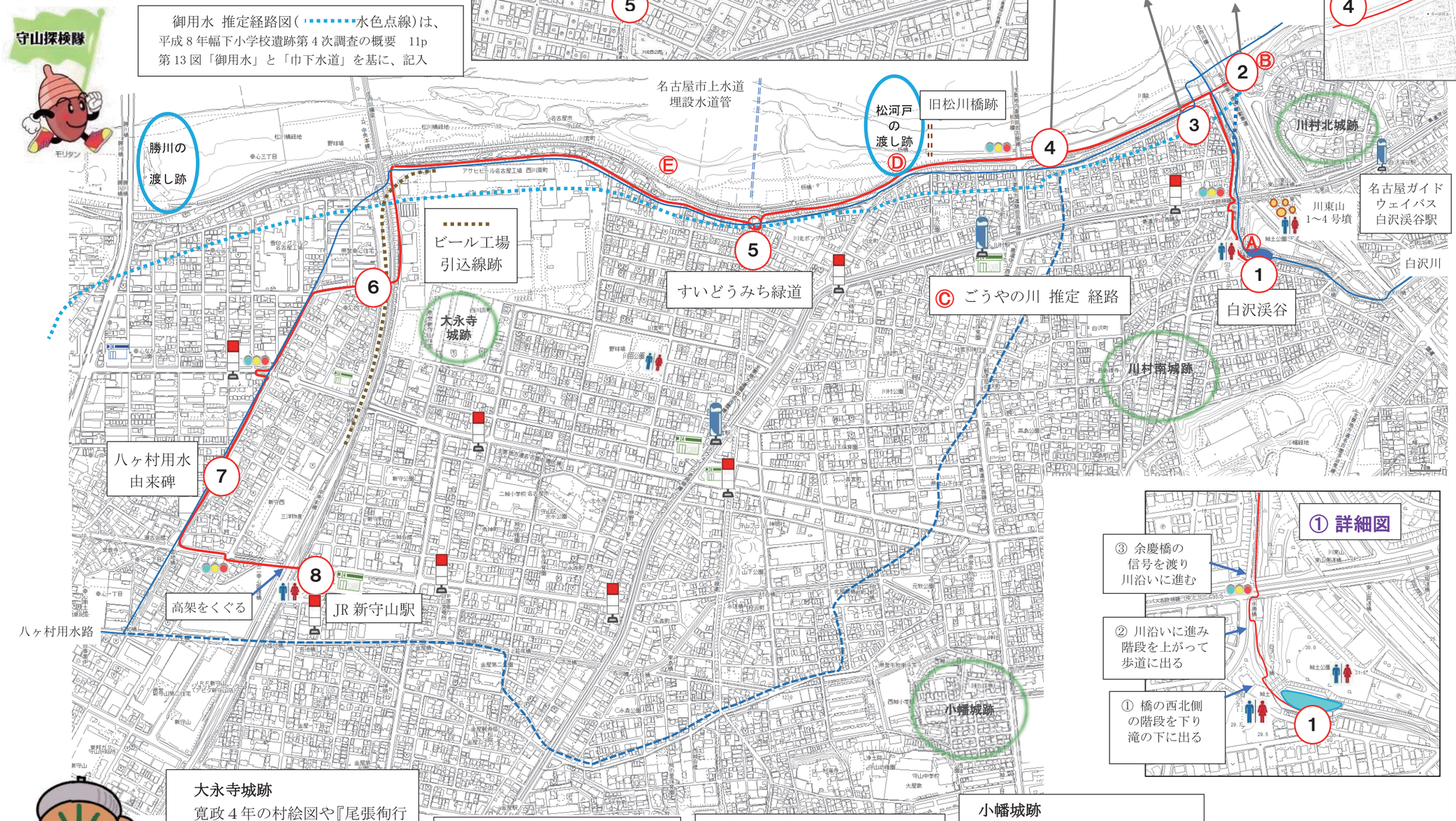
守山探検隊　まちあるきイベント
御用水コース　４．１ｋｍ
～ 城とムラを支えた水源をたどる ～

御用水 推定経路図（┅┅水色点線）は、
平成８年幅下小学校遺跡第４次調査の概要　11p
第 13 図「御用水」と「巾下水道」を基に、記入







Ⓐ　木製吊り橋時代の微笑橋

Ⓑ　吉根に繋がっていた旧道

たららが　　たたら
龍泉寺多羅々伽池（多々羅池ともいう）付近を通る道は伝説や民話にも登場し、利用者が多かった。庄内川の流路変遷により途中で消失した。

Ⓒ　ごうやの川

天保 12 年の村絵図にある六ヶ村用水はその名のとおり川村, 大森垣外, 牛牧, 金屋坊, 守山, 瀬古の各村を通る。

川村の東島郷と西島郷の間にある郷合（又は村合）を流れることから地元では「ごうやの川」とも呼ばれていた。

⑦八ヶ村用水由来碑にある「郷合川」のことと思われる。

大永寺用水と幸心用水は、御用水から分水利用した。

Ⓓ　松河戸の渡し

小牧長久手の戦いの際に、西軍の三好秀次が渡河した。

東軍の家康隊は勝川の渡しを経て、小幡城に入った。

Ⓔ　庄内川の砂利採取

昭和初年以前に、砂利採取会社が中央線から庄内川河原まで引き込み線を設置していた。また、砂利を運ぶためのトロッコ線が昭和７年頃までひかれていた。

その後はトラック輸送が主流となった。

大永寺城跡

寛政４年の村絵図や『尾張徇行記』によれば、室町から戦国時代に大永寺村に築かれた川原平作の居城とされる。

地名変更前に、川原西町付近は「城の内」と呼ばれていた。

川村南城跡

16 世紀半ばに、織田信長の家臣水野右京之進が築城したと言われている。水野氏の菩提寺である長命寺に石碑が現存する。

川村北城跡

15 世紀の末頃に津田武永が築城後、岡田時常、牧長義が城主となった。川村南城とは直接の関係はない。

小幡城跡

大永２年、岩倉織田氏の家臣岡田重篤が築城したと言われている。小牧長久手の戦いの時に一時修復されたが、のちに廃城となった。